

play here

みんなでつくる「見守り」ガイドライン（たたき台）

ver. 2026.7.28

本資料は、試行版です。関係者との対話や議論を通じて継続的に更新していく営みを大切にしたい。そのような趣旨に基づいて「たたき台」として公開しています。

もくじ

1.はじめに	1
1-1.この資料の目的と利用範囲	1
1-2.想定している「見守り」の担い手	1
1-3.育みたい対話と、メンテナンスし続けるガイドライン	2
1-4.前提としたい、「障害の社会モデル」という考え方	2
2.見守りの範囲と観点	4
2-1.本資料において扱う「見守りアクション」の範囲	4
2-2.見守りの観点	4
3.「見守りアクション」のイメージ	5
3-1.「見守りアクション」のながれ	5
3-2.「声がけ」の種類	5
3-3.「障害の社会モデル」を踏まえた、「声がけ」の基本スタンス	6
4.声がけアクションのケーススタディ	7
4-1.ひとつの遊具でじっくり、長く遊びたい子	7
4-2.感情が大きくあふれて、表現している子	8
4-3.順番を待つことが、まだ少し難しい子	8
4-4.心無い言葉を投げかけられている/投げかけている状況	9
6.各公園の工夫	10
6-1.栗山公園	10
6-2.梶野公園	11
6-3.三楽公園	12

1.はじめに

1-1.この資料の目的と利用範囲

インクルーシブ遊具があつたとしても、「心のインクルーシブ」がそこに無ければ、行けない。これは、多くの当事者の方々から寄せられている声です。では、どうすべきか？

わたしたちは、「その場を見守る人の存在」を重要視し、その見守りが地域に広がっていくことを、その問いに応えるための一つの大きな柱に置いています。

では、そもそも「見守る」とはどのようなものでしょうか？

強い言葉を使えば監視でもなく、また、ただの放任でもない。より良い状況を願いながら、状況に介入をしたりしなかったりする。それは、ときにジレンマを生むものでもあるように思いますが、とはいえ、だからといって避けて通るものではなく、だからこそ、様々な立場からの意見や考えを総動員し、地域の知見として形作り、共有を図っていくべきものであらうとも考えます。

そこで、本資料は、ゆくゆくは広く公開していく可能性を念頭におきながら、まずはplay hereキャラバン関係者間での対話のためのたたき台としていくことを趣旨に、その要旨をとりまとめるものとします。

1-2.想定している「見守り」の担い手

制度や予算設計が叶えば、専門性のある方々が常駐し、子どもたちや保護者と関係を構築しながら見守ることが理想なのかもしれません。ですが、play hereで育みたい公園文化は、多様な方々がこの公園を気にかかけ、可能な範囲で関わり合い、みんなで豊かな公園をつくること。

常に／頻繁にそこにいられる人や専門家だけが、「見守り」を担うものではなく、

- ・ふと公園の近くを通りがかった時に、ちょっと寄ってみる
- ・公園で起きていることを観察してみる、どうしたらいいか考えてみる
- ・困っていそうな人に目を向ける、気にかける
- ・ちょっとした声かけをしてみる

といった、日常の積み重ねこそ、これからの「見守り」のあり方のひとつかもしれない、と考えています。

play hereキャラバンでは、まさにそんな「見守り」を育んでいくことを願いに

- ・そうした中での発見や気づき、課題を持ち寄り、
- ・みんなでうんうんと考え合い、相談し合い、
- ・わたしたちに今できることを少しずつ見つけていく

といった、小さな関わりの積み重ねを大切にしたいと考えています。

1-3.育みたい対話と、メンテナンスし続けるガイドライン

play hereキャラバン関係者間での対話のためのたたき台。本資料の趣旨をそのように設定しています。では、そもそも対話とはどのようなものでしょうか。

組織開発を専門とする中原淳は、対話に必要な8つの要素を次のように挙げ、それを「話し合いの作法」とも言います。わたしたちは、最終的には地域にこのような対話や作法が広がり、それが習慣になっていくことが重要であろうと考えています。なぜなら、「これをやれば全てが解決する」という絶対的な答えのようなものがないからですし、だからこそ、会話や対話や議論を絶やさないということが、公園を本当の意味での「みんなのもの」にしていくために必要だと思うからです。

【①前提・マインドセット】

- 1.対話とは「ケリのついていないテーマ」のもとでの話し合いである
- 2.対話とは「人が向き合って言葉を交わす風景」である
- 3.対話には「フラットな関係」がよく似合う

【②行動】

- 4.対話では「自分」を持ち寄る
- 5.対話では「お互いのズレ」を探り合う
- 6.対話とは「今、ここ」を生きることである

【③成果】

- 7.対話では「自分を疑い、他者に気づく」
- 8.対話は「共通理解」をつくりあげる

(中原淳「『対話と決断』で成果を生む話し合いの作法」より)

1-4.前提としたい、「障害の社会モデル」という考え方

play hereでは、念頭に置き続けているのが、「障害の社会モデル」という考え方です。

「障害の社会モデル」（以下、「社会モデル」とは、障害のある人が制限や不利益を受けるのは、その人の心身の損傷（機能障害）のせいではなく、「多数派に合わせて社会がつくられてきたために、さまざまな社会的障壁（社会のバリア）があるから」と捉える枠組みのことです。（中略）なぜ「社会モデル」を知ってほしいと思うのか？ 三つの理由を挙げてみます。

まず、実際的な理由として、二〇二四年四月に法改正された「障害者差別解消法」において、事業者にも義務化された「合理的配慮」を理解するには、「社会モデル」の理解が不可欠だと思うからです。「社会モデル」を知らないままであれば、合理的配慮に対する誤解—「障害のある人に何かしてあげること」「思いやり」「特別なサービス」「優遇」……といった誤解もなくならないと考えています。

次に、障害のある人が直面している様々な差別（理不尽な状況）を、「そういう障害があるから、しかたない」ではなく、「多数派中心の社会側がバリアをつくっているせいで」起こっている問題だと捉え、バリアに気づく人やバリアをのぞくために行動できる人が増えて欲しい、という理由です。バリア（社会的障壁）は、少なくとも減らして行くことができるものです。

三つめは、マイノリティが声をあげ、さまざまに取り組んできた結果、「社会モデル」の考え方をベースとして「差別を禁止する」法律ができた、という事実が、他のマイノリティに属する人たちを力づけ、変化に繋がってほしいと思うからです。

「『社会モデルで考える』ためのレッスン」。play hereは、まさにそのためのレッスンでありたい。そう思います。どういうことか。例えばそれは、「障害」「障がい」「障碍」のどの表記を選ぶかという検討や判断にもつながります。どういうことか。障害とは、その人の側にあるものではなく、社会の側にあるもの。であるからこそ、そのバリアとも呼べる障害を社会的に取り除きたい。それがまさに「社会モデル」的に考えるということだったりします。play hereでは、そのような想いから「障害」という表記を用いるに至っています（実際には、色々な表記が交ざっているのが実態であり、それも良しとしたい気持ちもあります）。

大切に思うので、繰り返します。社会の側にある障害を社会的に取り除きたい。どういうことか。障害者差別解消法（以下、「解消法」という）について、松波さんは「『障害者に親切にしましょうキャンペーン』ではない」と言います。「『〇〇障害の人をどうお手伝いするか』ではなく、もっともっと、「社会のあり方」の方に関心を向けてほしい」と言います。そのとおりだと思います。解消法に先立って、「二〇〇六年の国連総会で採択された障害者権利条約のキャッチフレーズは『（障害のある人を）保護の客体から権利の主体へ』だった」と紹介されているように、共に等しく権利を持つ人同士として、そして、共により良い社会を目指す人同士としての関わり合いから事にあたっていくことが必要だと思うからです。

目の前で困っている人がいたら手助けをするというのは、もちろん言うまでもなく大切なことですが、話をそれで終わりにしない。そもそも、公園や地域に出づらく、その「目の前」にすら来られない人がいる。そうも思います。ですし、「暫定的健全者（ダン・グッドリー『障害から考える人間の問い』より）」という言葉にもはっとさせられましたが、助ける・助けられる、教える・教えられるという役割は常に暫定的で固定的ではなく、入り組んだり入れ替わったり変化するものであるとも思います。

ところで、より良い社会を目指したいと素直にそう思いますが、そういうときにいつも頭に浮かぶのは、福沢諭吉がsocietyという英語をもととは「人間交際（じんかんこうさい）」と訳していたというエピソードです。なので、言い換えます。より良い「人間交際」を目指したい。この書籍では社会学者のケイン・樹里安さんの「マジョリティとは、気にせずにすむ人」という言葉が引かれていました。う～ん、唸り、言葉を失うものがありますが、この「気にせずにすむ」と「気にせざるを得ない」が交差しながら、より良い「人間交際」をしていく。万能な答えは無いですし、最初からスムーズなことも無いと思います。が、それが良いとも思います。だからこそ、ごちないながらも、出会い続け、会話し続け、考え続け、行動し続けていく。play hereはそうありたいと思っています。

2.見守りの範囲と観点

2-1.本資料において扱う「見守りアクション」の範囲

状況を見守り...

①play here事務局に報告をする	本資料の扱う範囲
②声がけや働きがけをする	
③強い介入をする。専門機関につなぐ。	今後検討する範囲

①現状把握は、プロジェクトの展開において非常に重要です。

②声がけなどの働きがけのあり方を本資料ではとくに検討していきます。

③過度な責任が発生するアクションについては慎重な検討が必要であると考え、本件の初期においては創出すべき見守りアクションの範囲外と考えます。

2-2.見守りの観点

①身体的危険はないか？	例) 回転遊具のスピードが早すぎる
②精神的危険はないか？	例) 心無い言葉を投げかけている
③困りごとはないか？	例) トイレなどへのアクセス
④膨らませたい良い状況は生まれているか？	例) 当事者の方が遊べている

①-③解決したい課題を明らかにしていきたいと考えます。

④同時に良い可能性も見出していきたいと考えます。

3. 「見守りアクション」のイメージ

3-1. 「見守りアクション」のながれ

①状況観察		
身体的・精神的危険はないか？ 困りごとはないか？ 膨らませたい良い状況は生まれているか？		
②判断		
対応の緊急性が高いか？ 高くないか？		
③アクション		
A：緊急性が高くない場合	B：緊急性が高い場合 (声がけなどの働き掛けをしない)	C：緊急性が高い場合 (声がけなどの働き掛けをする)
オープンチャットや事務局に報告する	オープンチャットや事務局に報告し判断や対応を依頼する	現場で対応しオープンチャットや事務局に報告する
ポジティブ／ブリッジングフィードバックをする		

特にCの「声がけ」が難しい論点

一方で、AもBもともに重要であるため、いきなりCを目指さないスタンスも大切

3-2. 「声がけ」の種類

ポジティブフィードバック	また起こって欲しいポジティブな状況の再現性を高めていくための声がけ
	例) 良い形で遊んでいた子どもたちに対して、「みんなで遊べるように工夫してくれてありがとう。またよろしくね」「他のお友だちにも是非広めておいてもらえると嬉しいな(チラシを渡す)」など
ネガティブフィードバック	改善や是正させたい状況の再現性を下げていくための声がけ
	例) 回転遊具を激しく回して他の子どもが入れないような状況に対して「今のはちょっと危なかったかもしれないな。このゾーンは、障害のある子もない子もみんなで遊ぶための工夫をしているんだけど、その工夫を知ってもらったり、みんなにも工夫してもらうことで、それが叶うんだ。是非、これを読んでみてくれないかな(チラシを渡す)」
ブリッジングフィードバック	目の前のこと以外の領域に話を繋げて、次のアクションやインスピレーションを誘発するための声がけ
	例) play hereに興味を持ってくれた大人に対して「障害のあるなしに関わらずみんなで、(あそこの)栗山公園の池でビオトープづくりもしています。もしよろしければ是非遊びにいらしてください(チラシを渡す)」 「わたしもそうなんですが、みんなで遊べる環境をつくるために、ここの見守りボランティアを募集しています。もしよろしければ是非「おしゃべり会」にいらしてください(チラシを渡す)」

特に「ネガティブフィードバック」が、ときに強い介入を要し、難しい論点

3-3. 「障害の社会モデル」を踏まえた、「声がけ」の基本スタンス

- ・「指導する人」ではなく、社会的なバリアを見つけて、ほどく・翻訳する

公園や地域にあるさまざまなバリア（遊びの中の暗黙のルールなどの見えないバリア、視覚的な情報の少なさや高低差、段差などの見えるバリアなど、様々な観点がありそうです）に気づき、それを子どもたちが少しでも過ごしやすくなるような工夫を考えます。

- ・誰もが対等な主役である視点を持つ

「助ける／助けられる」「健常／障害」という固定された関係をつくらず、トラブルが起きたときも、どちらか一方だけを大人が庇ったり叱ったりするのではなく、双方の「嫌だった」「早くやりたかった」などの気持ちや考えを、どちらも同じ重さを持つ大切なものとしてフラットに受け止めたいと考えます。

- ・「ここに来られない人」へも想像力をひらく

目の前の子どもたちを見守りつつ、「そういえば、あの子たちは最近見かけないな」「何か来づらい理由があるのかな？」と、ちょっと想像してみる。「周囲の視線が気になって、まだ敷地に入るのを迷っているのかな？」「時間帯をずらして来ているのかな？」など、見えない困りごとにそっと寄り添い、工夫を考え続ける姿勢を大切にしていきます。

- ・トラブルやぎこちなさを、ともに関わり合うための大切なプロセスとする

すれ違いや衝突を「あってはならないもの」として排除するのではなく、多様な人が出会い、対話し、お互いを知っていくための大切なステップ（前述の「人間交際」のレッスン）として捉えます。大人が先回りして喧嘩を未然に防ぎすぎるのではなく、安全は確保した上で、お互いが試行錯誤しながら関わり合えるようサポートします。

4.声がけアクションのケーススタディ

ここからは、想定される具体的なケースを検討していきますが、見ず知らずの場面へ直接的・本格的に介入することは簡単なことではありません。まずはご自身と周囲の安心・安全を最優先にしてください。その場だけでの解決を目指す必要はなく、「**play here**のチラシを渡す」「**play here**について紹介している看板と一緒に眺める」といったさりげない関わりだけでもその場を和らげる大切なアクションです。直接動くことが難しくても、「今日こんなことがあった」とLINEのオープンチャットに報告・共有していただくこと自体もありがたく、今後のガイドラインを充実させる大切な土台となります。

このケーススタディを関係者間で議論し深めて増やしていきたいと思います

4-1.ひとつの遊具でじっくり、長く遊びたい子

【状況】

お気に入りのブランコや回転遊具をととても気に入って、長い時間乗り続けている。周りの子が「代わって」と声をかけても、なかなか気づけなかったり、途中で交代するのが難しかったりする。

【捉え方・見立ての例】

「切り替えができない子」と個人の課題にするのではなく、「あとどれくらいで交代なのか、終わりが見えにくい状態」や、「そろそろ譲る、という周囲の暗黙のタイミング」が、その子にとってのバリアになっているのではないかな。

【対応例】

- ・大人が無理に交代させたり、待っている子に「諦めて他へ行きなさい」と促したりするのではなく、その場の全員が無理なく関われる方法はないか試してみる。
- ・「この遊具が本当に好きなんだね」とその子の気持ちを大切にしつつ、「砂時計が空っぽになったら交代しようか」「時計の針が3になったら次の遊具で遊ぼうか」と、「見通し」を具体的な数字や絵で伝える。
- ・待っている子たちには「あの子はいま、じっくり楽しんでいるところだから、もう少し待ってみようね」「こう伝えてるからね」と状況を伝える。あるいは、**play here**のチラシや看板と一緒に読み、インクルーシブ遊具エリアの位置付けについて伝える。

【考え方】

- ・順番に交代する、空気を読んで譲るなどといった、暗黙のルールだけを正解とせず、じっくり遊びたい気持ちも、はやく交代してほしい気持ち、どちらも大切にしたい。それぞれの気持ちがぶつかるぎこちなさやプロセスそのものを見守りたい。
- ・一方で、手が出そうになっていたり、怪我につながりそうな安全面上のリスクがある場合は、間に入ってストップをかける必要もある。一人で対応することの難しさを感じた場合は、その場にいる他の保護者の方々と声を掛け合い、ゆるやかに連携しながら見守っていききたい。

4-2.感情が大きくあふれて、表現している子

【状況】

気持ちの切り替えが難しかったり、思い通りにいかないことがあったりして、大きな声で泣いてしまったり、体全体で悔しさを表したりする。周囲の親子がどう関わればよいか分からず、少し離れて様子を見守っている。

【捉え方・見立ての例】

「感情をコントロールできないこと」を個人の課題とするのではなく、「激しい感情の表出をどう受け止めていいか分からないという周囲の戸惑い」や、「静かに気持ちを落ち着けられる場所がない/見つけられていないこと」がバリアになっているのではないか。

【対応例】

- ・まずは安全を確保した上で、「悔しかったね」「びっくりしちゃったね」とその子の感情に寄り添いつつ、クールダウンできるスペースを提案（土管など）する。
- ・保護者の気持ちにも寄り添いつつ、「何かできることがあれば言ってくださいね」と声を掛ける。
- ・周囲の人に向けて、「少し気持ちが溢れたみたいですね、少し待ってみましょうか」「気持ちを落ち着かせるための大切な時間なんですね」と状況を共有する。あるいは、play hereのチラシや看板と一緒に読み、インクルーシブ遊具エリアの位置付けについて伝える。

【考え方】

- ・その場で無理に止めようとしたり、公園の隅へ促したり、周囲の親子を遠ざけたりするのではなく、気持ちを受け止めつつ、クールダウンスペースを提案する。
- ・「場合によっては感情が大きくあふれることもあるけど、少し時間が経てば/場所を変えたら落ち着くんだな」という姿を、お互いが自然に居合わせながら経験できる場として見守る。

4-3.順番を待つことが、まだ少し難しい子

【状況】

遊具の順番を待つのが難しく、前にいる子の間に入ろうとしてトラブルになってしまう。周囲からは「ちゃんと並んでね」と声をかけられている）。

【捉え方・見立ての例】

- ・「順番が守れない子」と個人の課題にするのではなく、「順番待ちという目に見えないルールなどが、その子にとってのバリアになっているのではないか。

【対応例】

- ・「順番が入れ替わっちゃうとびっくりしたね」「早く遊びたくてドキドキしちゃったんだよね」と、お互いの「こうしたい」「嫌だった」という気持ちを受け止める・翻訳する。

- ・「ここに3人並んだら交代しようか」「砂時計が空になったら/時計の針が3になったら交代しようか」と、ルールを物理的に見える化する。

- ・状況に応じて、周囲の子たちにも「いま順番を待つ練習中なんだ」と、少しだけ翻訳する。あるいは、play hereのチラシや看板と一緒に読み、インクルーシブ遊具エリアの位置付けについて伝える。

【考え方】

- ・「あの遊具には近づけさせないようにしよう」とその子を遠ざけたり、逆に周囲の子たちをその場から離れさせたりするのではなく、安全を確保した上で、その場に「ともに居合わせる」ことを目指す。

- ・完璧でスムーズな対応を最初から目指すのではなく、すれ違いやぎこちなさも含めて、お互いが「あ、こういう風に遊びたい子もいるんだな」「こういうときはこう言えばいいんだな」と、自然に経験し合えるプロセスを大切にする。

4-4.心無い言葉を投げかけられている/投げかけている状況

【状況】

パニックになってる子、ひとつの遊具でじっくり遊んでいたい子に対して、周囲のこどもが心無い言葉を投げかけている

【捉え方・見立ての例】

- ・自分たちとは「違う」と感じる存在や言動に出会った時にどう接していいか分からない、普段当たり前に行っている自分たちの遊びができなくなっていることへの戸惑いやいらつきによって「心無い言葉」が表出しているのではないか

【対応例】

- ・まずは、「投げかけられた子や保護者」の困惑や傷つきの状況によっては、様子を見ながら声をかけ、状況によってはその場から少し離れるサポートを行う

- ・「投げかけている子」に対しては、「あの子は、この遊具がすごく楽しんだって」「気持ちを落ち着かせている時間なんだよ」と状況を説明する

- ・あるいは、「この公園は、障害がある子もない子もみんなと一緒に遊べるようにつくられてるんだ。どうしたら一緒にいられるか、どんな工夫があったらいいかな？」と伝える。あるいは、play hereのチラシや看板と一緒に読み、インクルーシブ遊具エリアの位置付けについて伝える。

【考え方】

- ・誰かを傷つける言葉や精神的な危機が想定される状況に対しては、まずは安心安全を確保したい

- ・一方で、「心無い言葉を投げかける」こどもをただ排除・叱るだけではなく、状況の説明・翻訳、あるいはインクルーシブ遊具エリア自体の位置付けの解説もまた同時に必要と考える。

6.各公園の工夫

*公式サイトにて公開中での整備計画資料より一部抜粋掲載しています

<https://playhere.site/>

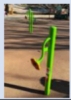
6-1.栗山公園

※写真や舗装などの色は、あくまでも現時点のイメージとして掲載しています。

栗山公園

◆整備イメージ

おしゃべり遊具：
音を楽しむ要素として、フェンスを挟んでおしゃべりができる遊具を整備します。



人工芝：
舗装を人工芝とすることで、遊具でなくても、ねそべる・はうことができます。



土管：
低木や高木で区切られた範囲に静的な遊びとしてクールダウンゾーンを設けます。製品を用いず、土管を用います。



回転遊具：
車いすのまま乗ることができるシンボリックな遊具としてエリアの中央に近い場所に回転遊具を整備します。



時計と砂時計：
遊具を待つ時間や遊んだ時間が分かるように時計塔や砂時計を整備します。

移動式ベンチ：
子どもを近くで見守れるよう、移動式のベンチを配置します。

門扉：
外周の柵の出入口は子どもが勝手に出ていかないように門を設置します。

ベビーカー置き場：
子どもが安全に遊べるよう、ベビーカー置き場を設けます。

親水スロープ：
水面を目線で近い位置で跳められる池へのアプローチを整備します。

ベンチ：
大人の休憩・見守りスペースとして、樹木の下にベンチや縁台を整備します。

柵とゴムチップ舗装：
回転遊具とブランコの周りに柵を設置して、入口と出口を作ります。遊具の周りは柔らかいゴムチップ舗装にします。



順番待ちスペース：
回転遊具とブランコの入口には順番に並ぶ場所に足跡マークなどをつけてわかりやすくします。

球体型ブランコ：
身体を支えることが難しい子どもでも安定した姿勢で乗ることができる、球体のブランコを整備します。



外周柵とパネル遊具、コミュニケーションボード
エリアの外周には飛び出し防止のためフェンスを整備し、一部に遊べるパネルやイラスト・メッセージを伝えるためのコミュニケーションボードを配置します。



9

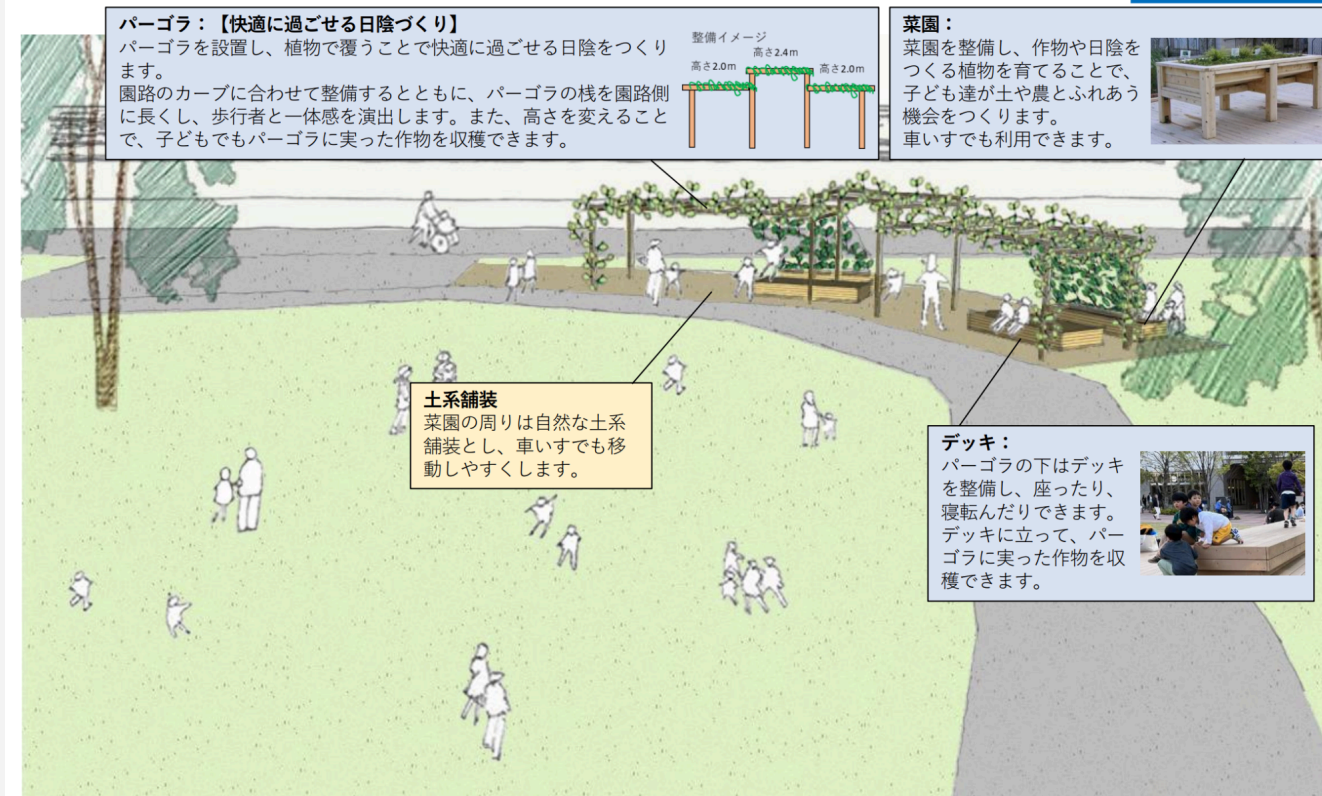
その他

- ・障害者用駐車スペースも拡充整備されています。
- ・園内の健康運動センター内の医務室を障害がある方が多目的に利用できます。
- ・既存の池を障害のあるなしに関わらずみんなでビオトープ化するワークショップを開催しています。
- ・公園のトイレをユニバーサルベットのトイレにリニューアルします。

※写真や舗装などの色は、あくまでも現時点のイメージとして掲載しています。

梶野公園

◆整備イメージ（詳細）



その他

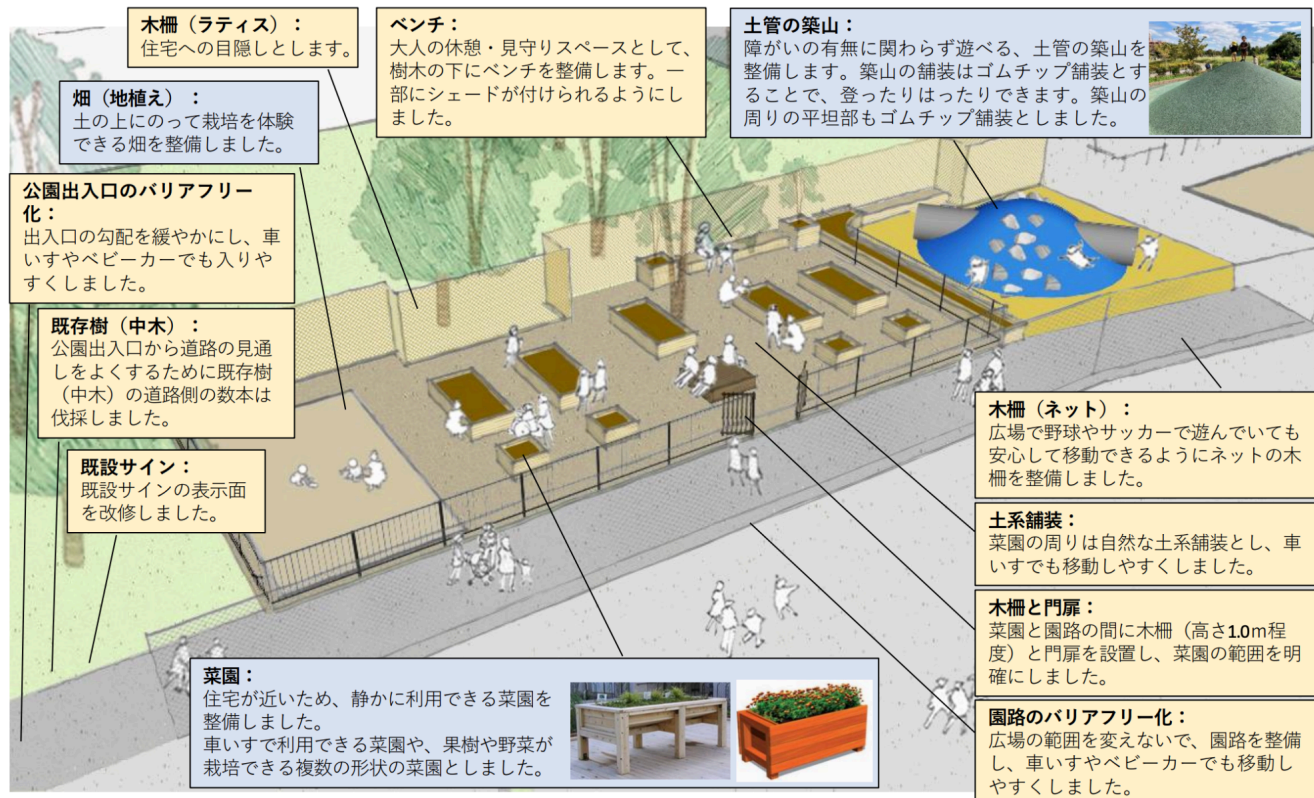
- ・障害者用駐車スペースも拡充整備されています。
- ・既存のだけでもトイレに介助用ベッドが追加整備されています。
- ・パーゴラではキウイが生育中です。
- ・菜園ではハーブが育っています。
- ・それらのハーブを活用したアクティビティも行われています。

6-3.三楽公園

※写真や舗装などの色は、あくまでも現時点のイメージとして掲載しています。

三楽公園

◆整備イメージ（詳細）



20

その他

- ・誰でもトイレが整備されています